



## YFA育成年代U10-U18 指導者ガイドライン

### 指導者は選手の未来に触れている

指導者は、選手が好きなサッカーを通して人としての成長を果たし、将来、多くの仲間と共に豊かな人生を歩むことができるよう指導教育(人づくり)でなくてはなりません。

だからこそ、我々指導者は、決して利己的な判断で選手を指導することがあつてはなりません。

また、選手の自発性を培う為に「責める」ことは止め、「褒める」ことを増やし、健全な社会性を培う為には「叱る」べき時を見逃さない指導が必要となります。

選手は成長しています。児童期(U12)までは「してあげる人」として多くのことを選手に学ばせ、思春期(U13-U18)からは、してあけることを少しずつ減らし、「見守れる人」として選手の自立性を培わなければなりません。

はじめに「YFA選手育成指針」について紹介し、Vo.1では「選手像」、Vo.2では「指導力向上」、Vo.3では「人づくり」について指導者の関わり方を確認します。

### YFA選手育成指針 2019- めさせ 強豪県復活！一貫指導体制の実現

#### 山梨県の目指す選手育成 4つの柱

ゴールを目指し、たくましく（球際に強く）チャレンジし続ける選手  
～1対1の攻守にタフな選手へ～



### 攻守にたくましく（球際に強く） チャレンジし続けることができる選手の育成

#### Badな関わり方

##### ・局面の出来ばえに一喜一憂してしまうコーチング

「抜かれるなよ、失うなよ、バカか、どこ見てるんだetc.」  
⇒うなだれる選手、自信の喪失 ⇒プレーの停止

##### サッカーにおける「ミス」とは

サッカーの目的は「ゴールを奪う」「ボールを奪う」「ゴールを守る」こと。よって、この過程で起こるアクシデント（ボールを失う、キックミス、コントロールミスetc.）は必然現象であり「ミス」ではない。  
選手にとって「ミス」とは、過程で起こるアクシデントにうなだれ、プレーを停止し（関わらない）、目的へのチャレンジを止めてしまうことがある。

##### ・球際に遅くプレーできない姿を見逃してしまう

- ①ヘディングの競り合いでボールから目を背け、ボールを見失つたり、ファールを犯す
- ②バス＆シュートブロックでボールから目を背け、背中やお尻からブロックに入る

ヘディングの競り合い、バス＆シュートブロックの球際へのプレーは「気合い・勇気」で実現するものではない。  
ゲームの勝敗を左右する「ボールを奪う」「ゴールを守る」局面において、重要不可欠なスキルとして身に付けさせなければならない。

##### ・審判に対するクレームボイス

「おーい、逆だろう、ちゃんと(笛)吹け、オフサイド！ etc.」  
⇒戸惑う、共鳴する選手 ⇒プレーの停止

#### Goodな関わり方

##### ・プレーの連続（攻守の切替）を身に付けさせる

選手自身や仲間がアクシデントを起こした時、速やかに次の局面に関わり続けることができるようとする。

- ⇒アクシデント（抜かれた、ボールを失った）を起こした選手に対して「次はetc.」のコーチング  
⇒プレーを連続した選手に対して「ナイス、グッドetc.」の賛辞

##### ・球際に遅くプレーすることができるようになる

- ①最後までボールを見据え、体を張ってヘディングの競り合いができる。
- ②最後までボールを見据え、体を張ってバス＆シュートブロックができる。

##### ・選手を成功体験へ導くコーチング

ゲーム局面における成功の積み重ね ⇒自信の芽生え、スキルアップ

##### ・審判へのクレームボイスは厳禁とし、

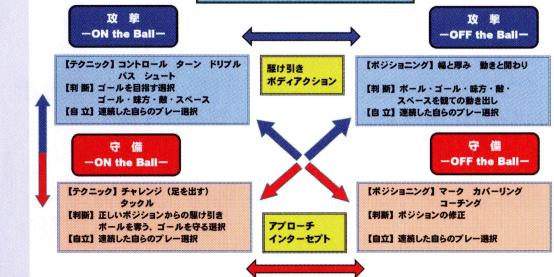
ジャッジに則したプレー準備をコーチング  
⇒「相手ボールだぞ、次の準備は!etc.」のコーチング



### 1対1の攻守にタフな選手の育成

1対1の局面に則した判断を身に付けさせ、下した判断を実現するテクニックと実現し続けるプレーの連続性（タフ）を磨き上げる  
1対1の局面に求められる戦術、テクニック要素

個の強化・育成 1対1の局面



#### 特長のある選手の育成

##### Badな関わり方

##### ・勝利主義による選手へのプレー制限

「～しておけ」「～するな」など、選手の判断を奪うコーチング

##### Goodな関わり方

##### ・選手が判断したプレーをリスペクトする

→プレー結果の評価ではなく、「判断」と「スキル」に分け評価  
⇒選手は良い判断を積み重ね、判断に必要なスキルを習得  
※U12まで一選手が下した「判断」に必要なスキルUPを重視  
※U13から一選手が下す「判断」のクオリティー(質)UPを重視  
・特長を見逃さず、磨き上げる一次のカテゴリーへの伝達

例) フィジカル→背が高い、足が速い、俊敏性  
キック→精度が高い、遠くに、一種類が豊富、強い  
ドリブル→速い、細かい、豊富なターンスキル(振り返り)  
ヘディング→ヘディングホールが強い、高い、精度が高い、遠くに、  
種類が豊富  
コントロール→当たり負けない、力強いスクリーンプレー  
コーチング→声が大きい、絶え間ない、戦術的  
運動量→闘わり続ける走力、質の高い動き(オフ・サ・ホール)



### 指導力の向上

#### ①選手への伝達力の向上

選手のwhyに対してbecause対応ができる指導者  
→技術、戦術に対する論理的な理解を深める  
※プレーを「判断」と「スキル」に分けて評価する為の必修事項  
⇒JFA公認指導者ライセンス講習会（学びの場）  
への参加、資格取得

#### ②魅力ある指導者のパーソナリティ

公平・公正：特定の選手に損益が偏る⇒チーム崩壊  
ポジティブ：試合結果、プレーを前向きに肯定的に精算できる  
バイタリティー：選手にやる気を持たせるゲット・モチベーター  
叱れる：チームに規律と団結を醸成する  
実技力：「真似る」見本となることで、選手は「学ぶ」ことができる

